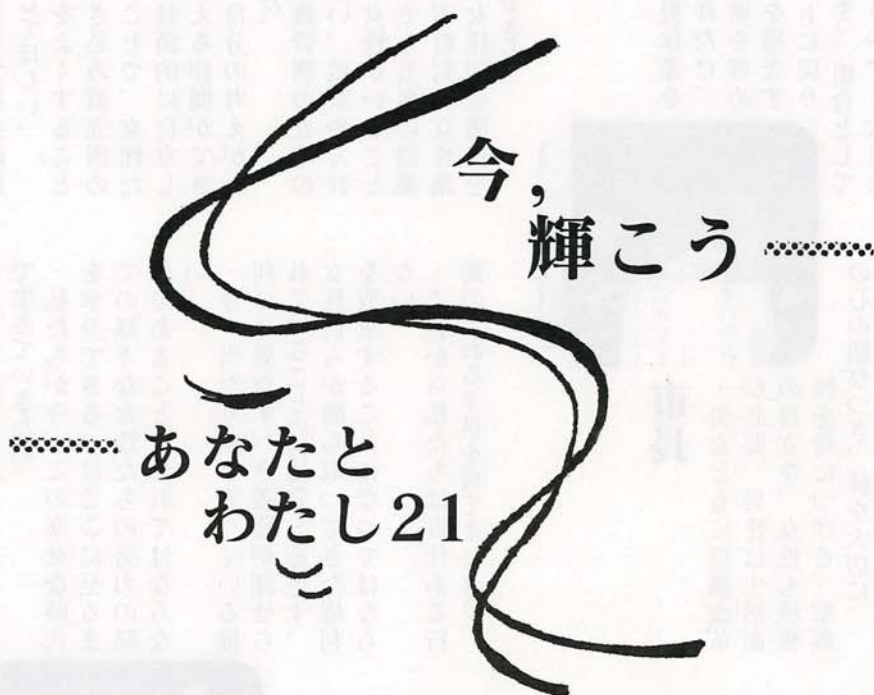


ばらんす

■編集発行 大田原市教育委員会生涯学習課 女性企画担当 〒324-0041 大田原市本町1丁目3-3 ☎0287-23-8718 ・FAX0287-24-2528

住みよい男女共生の社会を目指して大田原の集いが去る一月二十日(土)市総合文化会館で開催されました。野崎中学校合唱部の発表、その後シンポジウムで会場からも意見や感想が出され盛会の内に終了しました。

第17回 男女共生を考える
大田原のつどい



白井佳子
フリーアナウンサー

コーディネーター



千保一夫
大田原市長



日原悠子
大田原市教育委員会教育委員長



菅野泰久
連合栃木県北那須地域協議会事務局長



山田安子
長野県堀金村議会議員

シンポジスト紹介



市民憲章を唱和する会場の皆さん

スローガン

- 1.男女が共に尊重される平等な社会の実現をめざしましょう。
- 2.女性もあらゆる分野に参加・参画できる社会づくりをめざしましょう。
- 3.働く女性のための条件や環境の整備・充実をめざしましょう。
- 4.女性の福祉と家庭生活の向上をめざしましょう。
- 5.心身共に健康な人づくりをめざしましょう。

ひとひと 女男 さわやか シンポジウム

シンポジストの意見要約

山田

・女性自身が意識を変える。自分がどうして生きていきたいかを考え、自分から一歩踏み出す。主体的に考えることで社会の動きを知る努力をしてほしい。

・地域の暮らしをよくすることに男性たちを巻き込み直売所の実践活動をすることで、女性たちも収入がでる経済的に自立し始め、ものを考える仲間ができて自信をもって自分の考えが出来るようになった。

・まだ女性は企画管理の立場の人は極めて少ない。政策や方針を決定する場に女性がいることが大切で私の村でも五名の農業委員を選出。各市町村の女性議員は党派を超え女性国会議員を送り出すことができた。

菅野

・私の会社で育児休業をとった実績は一件だけ。問題は休みの空席を埋めるために他の人を補充するので同じポストに戻りにくくなってしまう。組合としては育児休業がとりやすくなるよう努めている。

・女性の雇用、管理職の枠に男女の別はないが女子社員は非常に少ない。管理職登用については組合側は期待しているが動きはない。



日原

・共生の根本はあくまでも愛情。愛情の豊かなところには決して差別は存在しない。夫婦は人生の半分を共有しているという形で生きていきたい。

・私たちが今、この幸せな時代を享受できるのはここに至るまでの様々な女性たちの努力の結果であることを忘れてはならない。

・今、当たり前と思っている権利には果たすべき義務が課せられていくことの自覚が必要です。女性自らが勝ち取ってきた権利を放棄することになってはならない。

・男女ともに意識改革が必要、男性は生活面の自立を、女性も積極性を身につける、家族の心の結びつき、絆を大切に。

・組織の中では女性も自己確立をしてほしい。自分の仕事に責任を持ち意識を述べ上司たちにも筋道を建てて対応できるように、人前に入る勇気をもつべきである。

市長

・これからは地方分権の時代、

地域の水準をきめるのは住民意識、行政に意見をぶつけることも必要である。



白井

・意識改革を考えたとき、家族、パートナー、自分自身の壁にぶちあたる現実。気後れや、圧迫、「可愛げのない女性に見られない」という思いをなくす意識が大切。

・二十一世紀になり、女性の活動の場は大。一人一人の意識の変化、行動力を一歩前に出る勇気が男女共生の原動力になるかもしれません。

会場からの声

・私は、生活費は自分で稼ぐという考えで男女同一報酬の職場を選んできた。パートの仕事はそれだけの能力しか求められない。昔からの美意識問題もあって難しいと思うのだが、社会的に器を整えていきたい。

・大田原と東京小平市で生活している。ただ話し合っているだけでなく、環境問題などもっと具体的に行動してはどうか。小平市では女性のパワーが凄い。目が生き生きとしている。女性の部課長が沢山いる。大田原の女性ももっと頑張ってください。

アンサー ト 参加者の声

七十代女

夫が定年になり、黙っていても家事を手伝ってくれなくなった。妻も老いることを知ってくれています。

七十代男

女性同志の団結は強い。地域の男性社会にも飛び込む勇気が欲しい。

六十代男

企画が良かった。男性の参加も以前より多くなった。

五十代女

権利と義務の話しに共感した。自分で考え主張していくことが男女共生の基本だと思います。

四十代女

社会的にも個人的にも二十代の高い二十代、三十代の参加を促したい。

四十代男

結婚後、子どもが生まれ妻が退職、自分たちの手で子育てを選択、妻も納得意識改革という点で刺激になりました。

三十代女

自分の意識改革をするのに役立った。

二十代女

女性自身が意識改革をし、共存していかなければ女性が権利を得ることはできないと思います。

講座

今から「エイジ」から 学びのいっぺり歩

女性のためのステップアップ講座

- ・女性問題とは
- ・レクリエーション演習
- ・身近な人権問題
- ・リーダーの条件
- ・野外研修(日光方面)
- ・会議の運営の仕方
- ・生涯学習による地域作り
- その他

今後に生かそう講座

西崎黎子

回を重ねる毎に温かい付き合いが深まりました。今後はそれぞれの地域での生活に励みながら、共に学んだ仲間として交流する機会を持ちましょう。またこの講座で学んだことを、地域活動に、そして自分自身の向上のために生かして行きましょう。



レクリエーション実習

生きる力

横山孝子

講師の先生方は、人とのつながりや地域の助け合いの大切さを、身近な事例を通して話して下さいました。この受講を機に、これからは多くのことを学び、私は私なりに頑張っていこうと思っています。

集う楽しさ

高橋佳子

自治会公民館の婦人部長という立場での参加でした。苦手意識がありました。回を重ねるうちに自信が持て、とても楽しく過ごせました。また他の地区の方々のいろいろな話が聞け、とても勉強になりました。

学ぶ喜び

阿久津幸子

今、ヘルパー職二級を目指し勉強していますが、白井先生指導の指遊び等が、老人ホームの実習で喜ばれました。

二十一世紀は生命の時代、生きる大切さをしっかり学んでいきたいと思えます。

生涯学習課では、女性の地域活動を確かなものにするため、あるいは積極的に地域活動に参加する女性を育成するため二つの講座を開催しています。

女性有志指導者実務講座

- ・真の男女共同参画社会をめざして
- ・ロールプレイングの演習と実技
- ・身の回りの環境問題
- ・野外研修(日光方面)
- ・大田原市の歴史
- ・国際理解
- その他

役割を分担して運営

渡辺怜子

私たちが受講生はできる限り参加に努め、進行運営は各回ごとに役割を分担して責任を果たして来ました。

受講生は全員で七人という少人数にもかかわらず、毎回の丁寧な抗議に感謝しています。今後はこの講座で学習したことを、これからの人生に生かし、努力をしていきたいと思っています。



国際理解について学ぶ

人との関わりに大切なこと

磯 チイ子

楽しそうに話し合っている受講生の一枚の写真を、市の広報紙の中に発見し学習意欲にかられた私。全講座とも素晴らしい学習内容でした。

私は特に星 建彦先生の「カウンセリング理論」が心に残りました。ナスキヤップは患者さんの「小さなささやき」を聞くためにかぶるものだそうです。相手を知ろうと思つたら、相手の話を聞くことから始めるといふ話は、人との関わりにおいてとても大切なことだと思えました。

野外研修 日光大猷院

山田弘子

十月六日、ステップアップと実務講座、今回の野外研修で日光へ。まず大猷院に、時まさに徳川家ブーム。二二七段の石段を大勢の参拝者と共に登り、最大の目的である家光公が眠る墓前に手を合わせる。

昔人の面影を偲びながら奥の院を一巡りする。この場合には再び訪れることはあり得ぬと思つと感無量。東照宮を前面に拝する位置に荘厳にたえず大猷院、世界文化遺産としての東照宮を後世に恙なく引き継ぐことこそ私たちの課題である。



大猷院を訪ねて

『栃木県女性の海外研修』

に参加して

住吉町二 岡田都茂子

先年六月、国連特別総会・二〇〇〇年会議が、ニューヨークの国連本部で開かれ、一九七五年第一回国際婦人年から四半世紀がたちました。西暦二〇〇〇年、ミレニアム。この節目に因らずも栃木県女性青年海外研修に参加する事となりました。

この研修は、本年度で二年目。女性の地位向上と男女共同参画の推進に向け、国際的視野を持ち、地域で活動する人材の育成を目的に県と市町村が共同で実施している事業です。現在、生涯学習の必要性が叫ばれています。私自身、男女共同参画やジェンダー問題に関心がありましたし、エコライフネットワーク「とちぎ」の会員として、環境問題に取り組みたいと思っていましたので、環境先進国ドイツへの研修は、学ぶところも大きいと考えました。

あれから七ヶ月。宿泊を含めた四回の事前研修、三回の事後研修。ドイツ、フランス・ヴォークリューズ県(栃木県の友好交流都市)

での現地研修。それら全てを二月三日、パルティータ女性センターでの海外研修報告会をもって無事終了する事ができました。研修中、多くの講師の先生方の講話を聞き自分の意思によって自分の生き方を選び、自分の責任において社会の一員として生きていく事の大切さを学びました。又、婦人相談所をかかわりに、野木町資源化センターや特別養護老人ホーム等十施設を訪問。他分野の社会事象に注意を払うようになりました。



ホームステイ先での団らん

神的にもかなりハードでしたが、大変貴重な体験をし、多くの気付きを得ることができました。国や文化が違ってても環境や男女平等への問題意識は、世界共通であることも改めて実感致しました。まずは自分が変わる事。初めの一步は小さくとも、とにかく前に踏み出す事、声に出してみる事。じぶんが変われば周りも変わり、きっと社会も変わって来ます。ネットワークを作りましょう。

ひとくち インフォメーションボード

女性も頑張ろう！ IT講習会

大田原市では、平成十三年度事業としてIT(情報通信技術)講習会を開催します。この事業は、全ての国民が情報化時代に対応できるよう、インターネットやメールの送受信、簡単なワープロを目的に、国が情報通信技術事業講習推進特別交付金を創設し、都道府県や市町村等が講習会を開催してゆくものです。本市では、平成十三年五月から十二月までの期間に約二千三百人の方を対象に市内七か所で約百回の講習会を開催します。一講習は、十二時間を単位とし、原則一人一回の受講となっております。受講料は無料ですが、テキスト代として千円程度の個人負担となります。なお、募集要項は四月十五日号の「広報おたわら」に前期(五月〜八月)開催分の募集チラシを折り込みますのでご覧下さい。詳しくは市教育委員会生涯学習課(☎23) 8718)へ

編集後記

大田原市女性団体連絡協議会の「男女共生を考える大田原のつどい」で、男女の格差是正には、女性もつと力を付けること、男女とも意識改革が必要なことが話し合われました。その為に行われている講座や、研修の一例を載せました。学習チャンスを作って、是非ご参加ください。

☆☆☆

今、ボランティアが叫ばれています。自己確立、社会参加等、多くの意義があると思います。「他人の幸せを自己の喜びとするボランティアの心を大切にしたい」そんな思いを男女共生のために生かしたいもので

編集委員

- 大久保愛子
杉山真美子
関谷 弘子
古各 芳子



敬称は略させていただきます。